



パンフレットを持って、博物館のまわりに広がる城下町の世界を探検してみよう!

高知の城下町 まめ知識〔郭中編〕

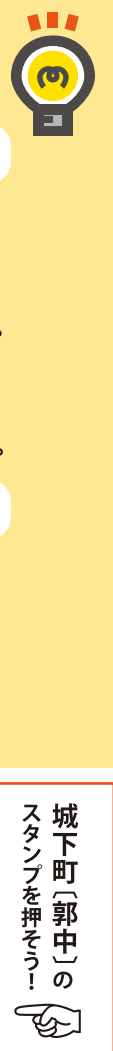
高知の城下町を最初に整備した人は誰ですか?
江戸時代の初めに、山内一豊が整備しました。

郭中の東西南北の範囲はどこまでですか?
東は堀詰、西は升形、南は鏡川、北は江ノ口川です。

郭中にはどういう人が住んでいましたか?
家老をはじめ、土佐藩の上級武士が住んでいました。

郭中には、何軒くらいの武家屋敷がありましたか?
江戸時代の終わり頃には約380軒ありました。

郭中はどのような特色の地域ですか?
お城があつて、土佐藩の役所や学校もあつて、上級武士が暮らす土佐藩の政治の中心地です。



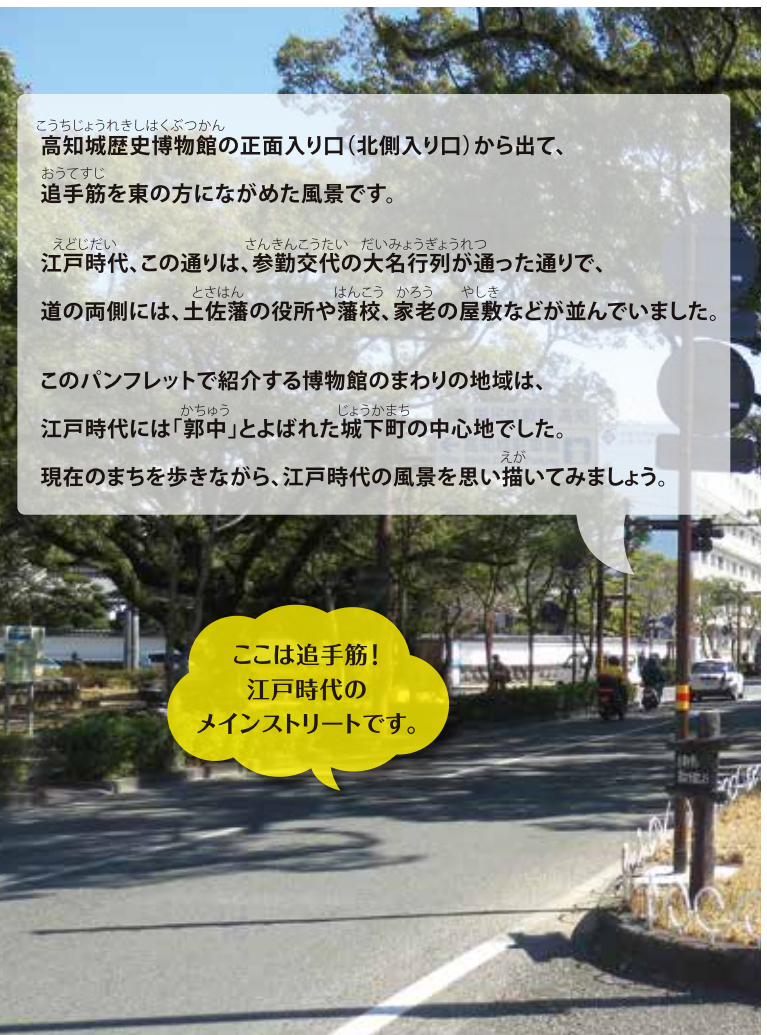
表紙航空写真:高知市承認28情報第575号



郭中編

平成29(2017)年4月

高知県立 高知城歴史博物館
Kochi Castle Museum of History



高知城歴史博物館の正面入り口(北側入り口)から出て、おうてすじ追手筋を東の方にながめた風景です。

江戸時代、この通りは、参勤交代の大名行列が通った通りで、道の両側には、土佐藩の役所や藩校、家老の屋敷などが並んでいました。

このパンフレットで紹介する博物館のまわりの地域は、江戸時代には「郭中」とよばれた城下町の中心地でした。

現在のまちを歩きながら、江戸時代の風景を思い描いてみましょう。

このパンフレットには、城下町を探検する時に役立つヒントがたくさんあります。



南は鏡川、北は江ノ口川を自然の外堀として、東西に広がる城下町が作られました。江戸時代の前期(17世紀半ば)には、城下町としての整備が進み、人口も2万人をこえています。

城下町は大きく3つのエリアに分かれていました。鏡川の上流にある上町エリア、高知城を中心とした郭中エリア、鏡川の下流にある下町エリアです。



江戸時代の高知の城下町 想定復元図
この絵を見て、現在と江戸時代とで、同じところ、違うところを探してみよう。

山本大編『図説高知県の歴史』河出書房新社、1991年より転載



※この地図は「寛文七年高知図」(1667年)を参考にして、平成12(2000)年時点の町区画を重ねて作成したものです。旧町名は、「旧町名保存伝承事業」の対象とされた昭和11(1936)年から住居表示実施直前までの町名を記していますので、江戸時代の町名とは異なるものがあります。

郭中と上町・下町の間は堀で仕切れ、郭中の内部は「筋(東西の道)」と「通(南北の道)」によって、整然と区画(都市整備)されていました。郭中には、家老や中老といった土佐藩の重臣をはじめ、上級武士たちが居住していました。お城を囲むように武士の屋敷が建ち並び、お城に近いほど有力な家臣の屋敷が建っていました。(地図中のオレンジ色の●印は、右上の写真の撮影場所と撮影方向です)



のりだし(現在のグランド通)から、東方面を見たところ。江戸時代終り頃の風景が想像されます。江戸時代には、土佐藩の正月の恒例行事「御取初」がこの通りで行われ、当日は朝から夕方まで、騎馬武者が通りを駆けぬけました。



お城の追手門から東へのびる道で、参勤交代の時に大名行列が通るなど、土佐藩の公的な表通りとされた道です。家老の屋敷をはじめ、北会所(藩の役所)や藩校教授館などが建っていました。

現在は商店街としてにぎわっていますが、江戸時代は、武家の町でした。藩主山内家一門の東屋敷・西屋敷をはじめ、家老ふかおけ ことろけ みなみかいしよ 深尾家・五藤家の屋敷、南会所(藩の役所)や医学館などが建っていました。

江戸時代の初め、城下町が整備される時に、最初にできた基本となる筋筋です。東の堀詰か、西の升形まで、郭中をつらぬく形で作られました。本町には中老の屋敷が多くありました。

お城下には石碑がたくさんあるよ!

なんの石碑が、いつ、誰によって、建てられているか、確認してみよう! 正面はもちろん、横や後ろも見てみよう!

やまうちようどう たんじょうち

A **山内容堂 誕生地**

山内容堂が生まれた場所です。とさはん、はんしゅ、ばくまつしげんこう、土佐藩の藩主で、幕末四賢侯の一人として有名です。

よしたどうよう きねんのち

B **吉田東洋 記念の地**

吉田東洋が殺害された現場の近くにあります。幕末に藩の政治改革を行った人です。

たけちはんべいた(すいざん) さいごのち

C **武市半平太(瑞山) 最期の地**

武市半平太が処分を受けて切腹した場所です。土佐勤王党を組織した人で、剣の達人でした。

いたがきたいすけ たんじょうち

D **板垣退助 誕生地**

板垣退助が生まれた場所です。「板垣死すとも自由は死せず」の言葉は有名です。

ごとうしょうじろう たんじょうち

E **後藤象二郎 誕生地**

後藤象二郎が生まれた場所です。大政奉還を山内容堂にすすめて、実現させた人です。

ふくおかたかちか たんじょうち

F **福岡孝弟 誕生地**

福岡孝弟の生まれた場所です。こかしょう、せいもん、五箇条の誓文の作成に関係した人です。

城下町探検の記録 年 月 日

マップを参考に、郭中エリアを探検してみよう! 気づいたこと、きょうみを持ったことをメモしよう!

.....

.....

.....

.....

.....

気になったものを、絵に書いて記録に残そう!

1

野中兼山屋敷跡

江戸時代の前期に、土佐藩の奉行職として活躍した野中兼山の屋敷があったところ。お堀の内側に屋敷がありました。

2

追手筋

江戸時代のメインストリートです。当時の道幅はどれくらいだったのか、発掘調査など、今後の調査が期待されます。

3

北会所ならびに教授館跡

北会所は、地域の政治を行う土佐藩の重要な役所でした。江戸時代中期には、藩校教授館も設置され、武士の教育を担いました。

4

深尾弘人屋敷跡

「ひろめ市場」という不思議な名前は、幕末の土佐藩の老家深尾弘人に由来しています。当時、ここに屋敷がありました。

探検の準備はOK?

地図、筆記用具、消しゴム、カメラなどを持っていると便利です。探検する時は、車やバイクに十分注意してね。水分補給も忘れずに!

探検した写真の に印をつけると、行った場所がわかりやすいよ!



5

南会所跡

南会所は、武士に関することや、裁判・教育に関することを扱った土佐藩の役所です。幕末、たけちはんべいた(すいざん)、あがりや、武市半平太(瑞山)は南会所の揚屋に入られ、最期を遂げました。

6

筆頭家老深尾家の屋敷跡

土佐藩の筆頭家老深尾家の屋敷があった場所です。この屋敷には、正月の御取初の際に、藩主が騎馬武者を見学するための2階建ての御櫓がありました。

7

江戸時代の堀と関係してる?

現在、ホテル三翠園とNTT高知南ビルの東側に、斜めに走る道路があります。もしかしたら、江戸時代の堀の場所や造りと関係があるかもしれません。

8

重要文化財 山内家下屋敷長屋

山内容堂の下屋敷(散田邸)に残る長屋です。けいご、あしがるつめし、屋敷の警護をつとめた足軽の詰所に使われていました。

